

しまつてはいけない 記憶

—さし出された救いの手—

期間

平成23年1月2日(日)～12月28日(水)

12月～2月 8:30～17:00 / 3月～11月 8:30～18:00(8月は～19:00)

会場

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

昭和二十年八月六日

広島市の街は一発の原子爆弾により

一瞬にして壊滅的な被害を受けました。

がれきの下で助けを求める人

瀕死の状態に逃げ惑う人

皆わが身のことで精一杯でした。

こうした中でも

家族や友人を助ける人

助けを求める声に立ち止まり

必死で救出活動をする人

苦しむ被災者に声をかけ

大切な食べ物や衣服を提供する人がいました。

そして、救護所では、多くの人が寝食を忘れて

被災者の看護に携わっていました。

火の迫る中での救出

思いもかけぬ親切、必死の看護

さし出された救いの手は

希望を失いかけた被災者に

生き抜く勇気を与えました。

今回の企画展では

惨状の中で助け合う人々の様子を

体験記を通じて紹介します。

被爆者の「こころ」と「ことば」にふれてください。



池庄司(久保)トミ子氏 作 広島平和記念資料館 所蔵



田島武雄氏 作 広島平和記念資料館 所蔵



相生橋周辺
米国立公文書館 所蔵

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

入場無料

原爆が投下された瞬間に吹き飛ばされて、家の中で気がついた。黒煙で真っ黒で何も見えない。しばらくすると、小さな光がわずかに目に入ってきた。その光を頼りに歩いて行くと、格子戸の玄関であった。外に出ると、すでに狭い道は瓦がいっぱい散乱し、歩くにも困難な状態で人々は泣き呼び、大人も子供も流血し火傷で顔の皮膚がずりりとむげ、ぶら下がっている。又、背中や腕足も水泡ができた人々で、右往左往と走っている。

私も何が何か分からず、人の後を歩いて走った。

南恭子さんの体験記より



中野健一氏作 広島平和記念資料館 所蔵



古川正一氏作 広島平和記念資料館 所蔵

「おじさん、助けてえ、助けてえ」と言ったら、おじさんが瓦礫をのけて、手を差し伸べて下さいました。私がおじさんの手をつかむと、手の皮がズルツとむけました。腐りかけたバナナを持つたら、ジュツと抜けるような感覚で、とても嫌でした。そうしたらおじさんがお互いの指を引っ掛け合うようにして引っ張り出してくれました。その時は助かってよかったと思うだけで、お礼も言えませんでした。

山中恵美子さんの体験記より

【開館時間】

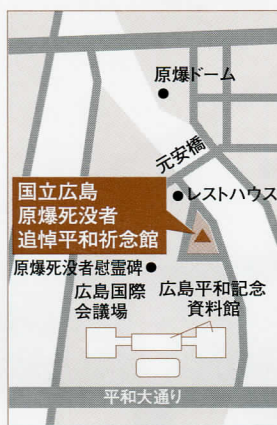
12月～ 2月……8:30～17:00
3月～11月……8:30～18:00 (8月は～19:00)

【休館日】年末年始 (12月29日～1月1日)

【入館料】無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から(約20分)
・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車



【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273

ホームページ

<http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せください。皆様のご協力をお願いいたします。